

地域課題にかかる全体会の委員の皆様からのご意見（12件回答）

1. 障害のある方の地域でのお困りごと・地域で暮らしていく上での課題

- 移動支援と行動援護を担える事業所がない。
市の方で単価を上げてくれたが、稼働する事業所が依然としてないので、コロナ終息後にニーズが高まった際に壊滅的な事業になっている。
- サービス等利用計画を作成できる事業所がない。知的障害の方の計画作成を担える事業所が少なく、毎年待機者が増えている状況。
- 福祉につながれず、家族だけで障害者の生活を支える家庭の支援が必要。精神障害者の自立については、つながっているのは医療のみ、福祉につながれず生活は全て家族が支援している家庭がかなりあるが、家庭にかかる生活支援がない。家族の負担は非常に大きく、特に親の高齢化に伴う負担が大きいため、支援を検討してほしい。経済的負担も大きいため併せて検討してほしい。
- 令和4年度の「福祉にフィットしない方たちのための次の選択肢を考えるワーキング」の議題に重なるが、当事者が課題と思わなくても支える家族の負担が大きいケースがある。また、精神障害者だけでなく、高次脳機能障害等、他の障害でも同様の課題抱えている家庭はあると思うので検討してほしい。
- 迷惑をかけてしまうからと自分達で抱えてしまい、在宅でしのいでいるケースをよく会議で聞く。社会全体で助け合っていくという恩恵を家族がもってもらえるような予算や仕組み作りが必要。
- 障害のある方が大きい病院等に受診する際に同行するサービスがない。ヘルパーの利用に関しては、長時間、単発の仕事なので担い手がない。
- 身体障害のある方の送迎ありの通所先や高次脳機能障害や介護保険第2号保険者の対応に特化した通所先が少ない。
- 災害時の不安が大きい（避難、避難所生活、情報保証等）
- 親子、きょうだい等障害のある方の家族支援がない
- 障害特性に配慮した情報提供、情報発信のサポートが必要
- 自転車が盲導犬と歩いているときに止まってくれない。盲導犬が驚くほどニアミスする。
- バリアフリーの現在のあり方について疑問を感じる。こころのバリアフリーというが、スロープの設置や図書館での布の本、乗車拒否しないなど法律で決まっていることばかりで権利とのすみわけ・違いは何であるのか。
- 「障害理解」以前にそもそも障害について知らない人への情報発信が課題。無関心・障害についての知識が全くない人への伝え方が課題であると感じる。数々の障害理解のための講演会や会議はあるが、来場者は関心がある人だったり、同じメンバーが多いように思う。
- 身体障害者にかかわらず年齢を重ねると身体の衰えが顕著になるので、すぐに立てるような高めのベンチが多くあったらいい。

- 年齢などライフステージによっても困り事は変化する。「切れ目のない支援」をより充実させるため、タテヨコの連絡・連携を深める必要がある。情報の連携、主要支援機関の明確化（三すくみにならない）、先を見通した支援の一貫性など「支援の移行」（タテ）。主要機関の明確化、親族単位の支援体制など「支援の協働」（ヨコ）。
- 高齢聴覚障害者の支援について、聴覚障害当事者の介護士や手話のできる介護士がいない。
- いま知的障害のある方の保護者の中で関心が高まっているのは、虐待、特に性被害の件であり、増加について。性教育は学校で全く教えられなくなって20年近くなり、特に知的障害者が性被害にあう事例や、加害者にされてしまう事例が増えている。しかし、いま、性教育は、支援のタブーとして考えられることも多く「まだほとんど手付かずの地域課題」として声が上がっている。

2. 障害のある方が地域で暮らしていく中であったらいいと思うサービスや地域資源等

- 18歳以上の方が夕方に利用できる送迎付きの日中一時支援がほしい。放課後等デイサービスを利用していただ方が、高校卒業後も利用できるサービスが必要。
- 発達障害の方が利用できる宿泊系サービスがほしい。知的障害がない発達障害の方が利用できる体験型グループホームがあると良い。
- 移動支援、行動援護、短期入所（単身生活の体験もできるとなお良い）を一体的に担える事業所がほしい。短期入所と移動支援を組み合わせることで幅広い地域生活を展開できる。
- 終活登録当事者が自身で意思を伝えられなくなったときのために「緊急連絡先」「本籍地」「支援事業所」「病院」「アレルギー」「お墓の所在地」等の情報を登録し、病院、福祉、警察等の照会に市区が回答する制度が必要。こうした照会に対する部門が無ければ、自身で意思を伝えられなくなった状態になり運ばれた病院等が調べねばならなくなり、負担できない病院等から受け入れを拒否されることもある。
- 24時間、1年中相談できる所。24時間、1年中受け入れてくれる所。（短期間・数時間でも）
- 障害のある方が居住できるコンシェルジュ付きの住居。
- 障害のある方の保護者や家族に対する支援サービス一覧がわかるアプリやサイト。
- 単身の高齢者が増えているため、今後の対応策を多くの人に考えて頂きたい。
- ヘルパーの単価を上げる、市独自の自由度のサービスを作る等検討してほしい。
- 医療的ケア対応のグループホーム、高次脳機能障害の特性に配慮したグループホームなど、多様な障害のある方が安心して暮らせる住まいの場が必要。
- 福祉サービスの通所等に繋がれない障害のある方が集ったり、話ができるような居場所が必要
- 医療と福祉が一体的になったアウトリーチ支援。
- 当事者が活躍・発信できる場。当事者自身が障害理解を促進できる場。
- 障害のことをそもそも知らない・無関心な人に情報を届ける仕組みや機会。
- 聴覚障害当事者の介護士や手話のできる介護士を増やしたり、毎週通えるようなデイサービス

を作る。聴覚障害者向けのグループホームを作るなどの施策が必要。

- 障害のある人の性教育やその支援について協議検討する場
- 教育課程にある小学校での障害理解の学習を、子どもたち同士の遊びやスポーツによる交流や、障害のかたと何か一緒に定期的に活動する、自然に触れ合う、という形で行えるプログラムを新たに創出できないか。

3. その他（質問、感想等）

- 障害のある小・中学生に対して、将来の自立に向けた講話やリーフレット等を使用した説明会を開催するにはどちらと連携していくと良いのでしょうか。
- 過去に下肢が不自由なお客様の車の整備を行ったことがあるが、障害のあるお客様にとって、気に入らないことがあったのではないかと考えさせられるところがある。協議会に出席することで障害のある方のことについて学ぶことができればありがたい。